



(写真3点/米山淳一)



英国保存鉄道・ブルーベル鉄道のSLは1号機関車と同じ同じ1872年製で動態保存中

鉄道博物館に静態保存されている英国製の1号機関車

## 鉄道遺産の保存と活用

公益社団法人横浜歴史資産調査会理事・工学院大学教授 後藤 治

現在、全国各地で様々な鉄道遺産の保存活用が行われている。そうしたなか、その取り組みを支援する国の法制度は、文化財保護法のみである。他に、JRの鉄道記念物、準鉄道記念物の制度(国有鉄道時代に由来)があるが、民営化してしまったので、国の制度というにはいささか抵抗がある。

文化財保護法では、車両が有形文化財の歴史資料として、駅舎、橋梁、隧道等の構造物が建造物として、文化財に指定、登録され保護されている。その数は、1996年に建造物の分野で登録有形文化財の制度が導入され、かつ、その頃から建造物以外の分野でも近代の文化遺産の保護に国が積極的に取り組むようになり、飛躍的に増加した。

そうしたなか、文化財保護法による支援には、大きな欠落がある。

例えば、鉄道車両の場合を考えてみよう。最も多い形は、資料館等の展示物として残す方法だろう。この方法は静態(Static)保存と呼ばれる。可能なら、車両を動く形で残したい。この方法を動態(Dynamic)保存と呼ぶ。さらに言えば、動態保存のなかでも展示物ではなく現役で、というのが多くの鉄道ファンの望みだろう。ところが、文化財保護法には、動態保存や現役利用を支援する手立てがないのである。

その欠落は、車両に限ったことではない。転車台のような機械設備しかり、駅舎のような施設しかりなのである。その理

由は、文化財保護法が専ら保存に力点を置いていることに加え、活用として具体的に示されているのが公開だけであり、かつ、国立博物館での公開に主眼が置かれているからである。ちなみに、2019年4月施行の文化財保護法の改正では、活用に力点を置くことが示されたが、動態保存や現役利用を支援するところまで至っていない。

公開以外の活用を進めることは、文化財としての魅力を高めるだけでなく、経済活動を支える資産として設備や施設を長く使い続けることの助けになるから、環境的(Sustainable)にも意義ある行為といえる。したがって、文化財保護法はもとより、鉄道遺産の「活用」を支援する国の各種法制度の充実が、さらに図られるべきだと思う。

鉄道の運行は、安全に深く関係しているのだから、長く使い続けるためには、各種部品の更新や安全装置の取り付け等も必要で、それと保存との調整が必要になってくる。例えば、各地で蒸気機関車の運行が行われているが、その背景に様々な労苦があることが聞こえてくる。

そうした労苦をどうすればより軽減できるのか、文化財関係者や鉄道関係者だけでなく、多くの知恵を集めなければならないが、それができるのが成熟した国の証というものだろう。イギリスの保存鉄道等を見れば、それは夢や絵空事ではないはずである。

# 近代化遺産としての鉄道遺産



近代化遺産とは、文化庁が平成8年(1996)ころから保存、活用を推進している対象で、「我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木遺産」のことである。人々の日常生活を支える交通機関である「鉄道」の歴史は古く、創業から150年を超えている。生活に密着している分、鉄道の駅舎、橋梁、トンネルなどごく当たり前の風景の中にあり、その価値は見過ごされがちだったが、近代技術の集積でなりたっている「鉄道」を「近代化遺産」としてのとらえ考え方が広まるにつれ、近年では「鉄道遺産」という言葉がよく使われるようになった。

現在、当公益社団が保存・活用に向けて取り組んでいる事例と、群馬県、愛知県の保存・活用の先進事例を紹介したい。

## 旧湘南電鉄瀬戸変電所

公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事 米山淳一

### 「鉄道調査隊、瀬戸変電所に出会う」

当公益社団法人では公益社団法人化以前から、近代化遺産としての鉄道遺産の保全・活用を目指し、鉄道遺産調査隊を作り、横浜市内の鉄道遺産調査を行っていた。隊長は、堀勇良(建築史家・元文化庁主任文化財調査官)で、小野田滋(鉄道総合技術研究所)、小田嶋鉄朗(横浜市)、米山淳一の4名で始まった

横浜市内をみわたせば、犬も歩けばでなないが、特に港周辺はこれらの宝庫。しかも、東海道本線、横須賀線、横浜線、東急電鉄、京急電鉄、相鉄など名だたる鉄道が目白押し。そこで、沿線歩き、歴史的臭いのする対象を探した。足で稼いだおかげで多くの発見があり、なかでも東海道本線保土ヶ谷一戸塚間はちょっとした峠越え区間。東海道本線が西へ延伸した明治20年代の隧道、赤煉瓦のカルバートなど大発見であった。しかもそれらが現役で使用されていることが驚きでもあった。

京急電鉄では、京浜と湘南電鉄が繋がる黄金町界隈が興味深かった。さらに、瀬戸変電所の存在には驚いた。昭和4年(1929)の竣工当時のまま金沢八景駅脇に残っていた。使命はおえているが、堂々たる建屋は存在感たっぷり。湘南電気鉄道時代の唯一の生き証人として十分に保存の価値がある。旧湘南電気鉄道とは、現在の京浜急行電鉄のことで、昭和5年(1930)に黄金町(横浜市)一浦賀(横須賀市)・逗子海岸(現・逗子市)間を開業したのが湘南電鉄だ。その後、京浜電気鉄道(品川—黄金町間)と合併して、京浜急行電鉄になった。今は幻の電鉄なのだ。

そんな湘南電鉄時代の面影を伝える唯一の建造物であり歴史的遺産として貴重な存在なのが瀬戸変電所である。変電所とは大容量の交流電源を整流器で直流に変換して電車に供給する設備。これが無いと電車は動かない。瀬戸変電所は、金沢八景駅の上り1番線ホーム脇にギリギリに建つ鉄筋、鉄骨コンクリート造りの重厚で存在感たっぷりの建物である。

### 「旧湘南電気鉄道瀬戸変電所を守れ」

鉄道遺産調査から10年後、なんと瀬戸変電所の取り壊しの噂を聞いた。当時横浜市都市デザイン室の小田嶋さんから瀬戸変電所が解体さ



京急電鉄金沢八景駅ホームから見た瀬戸変電所

れると知らされたのが平成26年(2014)。とんでもない、保存したいと伝えた。それから京急電鉄との交渉が始まった。幸い京浜急行電鉄が主旨をご理解下さり、保存に向けた道を一緒に歩むことでご快諾いただいた。



瀬戸変電所内部

公益社団法人横浜歴史資産調査会(以下YHG)では、

まず瀬戸変電所を見学。巨大な室内空間、天井クレーン、碍子、鋼鉄製の階段等、操業時からの様子を良くとどめ、味わい深い世界が拓かっていることを確認。

さらに、昭和53年(1975)頃に施設の機能を全廃し、新たなシステムに変更したことを知った。また当時まで瀬戸変電所に勤務されていた方々を金沢文庫電車区に訪ね、お話を伺った。この記録を報告書にまとめたのが最初の仕事で、平成26年度3月の事である。

平成27年度(2015)に、YHGで保存活用委員会(委員長 後藤治・工学院大学理事長)、委員 小野田滋(鉄道総合技術研究所)、田村雅紀(工学院大学教授)、西澤秀和(関西大学教授)、山本博士(公財)神奈川台場地域活性化推進協議会理事長)、梶山祐実(横浜市都市デザイン室長)、を設置。京浜急行電鉄工務部はオブザーバー参加した。

平成30年度(2018)には、西澤秀和先生のご指導のもと、建物の耐震、地盤の振動調査を行った。建物は、当初、鉄筋と思われていたが、鉄骨を混用していることが分かった。これは、田村雅紀先生のスキニング調査でも明らかになった。

しかし、設計図面などは一切、京浜急行電鉄にはない。西澤先生によると海軍の指導の下に建造された建物だから軍事機密の意味もあり無いのでは?とのこと。同じ昭和4年に田浦泉町(横須賀市)に横須賀線電化のための変電所が建造された。変電設備は一新されたが、建物は今も現役である。こども図面は無い。

### 「旧湘南電気鉄道瀬戸変電所の再生」

令和3年、4年度(2021~2022)は、京浜急行電鉄の意向もあり、変電所の線路側の壁の修理を行うよう要請があり、合わせて構造体などで支障がある箇所での修理を行うための調査と工事費の積算を行った。巨額の費用が明らかになり寄付金による資金集めを検討し始めた。ところが、横浜市都市デザイン室との調整が滞り、空白時間と協議が長く続いたが令和5年に決着。これまで通りの形でYHGが主体となり、再生に向けた事業を推進することになった。

京浜急行電気鉄道との情報交換会は、時折行っていたが令和6年7月、3年ぶりに保存活用委員会を開催した。これにより、今後の計画が明確になり、YHG、京急、横浜市が一丸となって再生に取り組む仕組みが出来上がった。

取り付道路の幅の関係で建築基準法や消防法などで制約があり、利活用にあたり不特定多数が出入りすることは出来ないことが判明。そのため事務所機能を備えた施設として運営し、年に数回、イベント的に公開等を行う方向である。また、まずは横浜市認定歴史的建造物として認めていただき、いずれ国重要文化財指定を目指したい。

# 碓氷峠鉄道施設群

NPO 法人碓氷峠歴史文化遺産研究会 理事長 萩原豊彦

## 400年の時空を超えて重なり合う「碓氷峠歴史文化遺産群」

長野、群馬県境を挟む碓氷峠区間には近世以降の交通史に欠くことのできない歴史的・文化遺産が積層している。今年中には、街道文化を象徴する「中山道碓氷峠越えの道」が昨年12月、「碓氷関所」などの遺跡とともに「国指定史跡」に答申された。

鉄道開通以前の明治17年、軽井沢―坂本宿間に碓氷新道(後の国道18号)が開通し、21年にはこの道路上に「東京馬車鉄道」に次ぎ我国で2番目となる「碓氷馬車鉄道」が開通。この横川―軽井沢駅間の11.2kmの碓氷峠区間に蒸気鉄道が開通したのは26年。この区間は本来「信越線本線」でありながら、特別に「碓氷線」と称した。

我が国最急こう配の66.7%を克服するため、遥々ドイツのハルツ山鉄道で使われたピニオンギヤーとラックレールを組み合わせた最先端の「アプト式鉄道」を採用した。これにより東京―直江津間の本土横断鉄道が完成し、当時の最大産品である信州産生糸等の定時大量輸送が可能になった。まさにシルクレイルロードの始まりである。

その後、明治38年には、新潟産の石油輸送のためパイプラインを敷設。45年、近傍に水力発電所の適地がなく、自前の石炭火力発電所、変電所等を建設のうえ、電気機関車による本邦初の電化区間が完成した。東海道線の全線電化完成の昭和31年から45年前のことであった。後の38年、輸送力増強のため新線を建設し、アプト式から粘着運転に切り替えた。平成9年北陸新幹線の開業と同時に横川―軽井沢間の鉄道は廃線となった。本区間には当初煉瓦造のトンネル26所、橋梁18基(1基は鉄桁)、カルバート21基の煉瓦構造物が連続していた。この結果、鉄道開通から130年の時を刻む土木構造物と、電化以降の発電・変電・饋電・送電・信号通信・保線などの鉄道関連遺産から、北陸新幹線に至る多くの鉄道技術が積層している。

ヨーロッパの最先端の技術を導入し、峠の急こう配に挑む輸送力増強の歴史を示す碓氷峠鉄道施設群は、平成5年「近代化遺産」として初めて重文に指定された。員数は「一構え」であり、まさに「一群」の遺産で構成されていることを如実に示している。その後も二度にわたり構成遺産が追加指定され、碓氷峠専用の機関車や図面、書類なども一括して保存・活用されている。

この時代を超えて積層する近代化遺産を地域づくりのシンボルとして活用すべく、様々な取り組みがされている。

現在、安中市では碓氷峠鉄道施設群と名勝「妙義山」の自然遺産とを複合した「世界遺産」への可能性を探る「有識者会議」を立ち上げ、庁内にプロジェクト推進室設置したところ。今後の活動に期待したい。



重文・旧丸山変電所(群馬県安中市/1912)



重文・煉瓦造4連アーチ橋・碓氷第3橋梁(群馬県安中市/1893)

# 愛岐トンネル群

愛岐トンネル群保存再生委員会理事長 村上真善

## 「いや、参った! オーバーツーリズムの波が廃線へも」

愛知県と岐阜県にまたがる県境に国鉄旧中央線の廃線がある。18年前に偶然、藪の中に眠っていた廃線跡とそこに横たわる13基のトンネル群を発見してしまった。見つけてしまったのが“あとの祭り!”再生を目指していそいそと藪漕ぎを続け、発掘?した愛知県側4基のトンネルと軌道敷1.7キロを、毎年春秋の2回、計14日間限定の一般公開を続けている。

17年間で33回目(1回はコロナ禍でお休み)の今秋の公開には、初日に40万人目入場者のセレモニーを行った。今回は私鉄全社(と言ってもJR・名鉄・近鉄の3社であるが)がポスターを掲出、新聞各社、TVに至っては全5局が放映するなど、近年まれにみるマスコミ大宣伝が繰り広げられた。しかるに当然、理事長たる小生も極悪非道人のごとく各マスコミに顔出しが繰り返されてしまい、親戚一同から「恥をさらすな!」と大ブーイングの嵐であった。



C57の第一動輪



愉快な妖怪たち8匹が登場した妖怪隧道



定員5人の自転車通行システム

そのおかげか通常時は1時間に2本の普通電車しか停らない最寄りの無人駅に快速まで停車。最終日にはあれよ、あれよと降車人数が膨れ上がり、駅から入場口まで300mだが、駅を通り越して400mまで行列が続いてしまった。圧巻の行列に電車を降りた1500人余りの乗客が恐れをなしてUターンしたそうだ。秋公開の入場者は実に3万4千人、春秋合せた人数は5万4千人と共に過去最高を記録してしまった。

我々の活動は毎週2日の現地作業、月1回の例会を続けている。地元自治体の協力を仰がずにビュアな市民目線で将来像を見すえて苦悶しながらも夢中に前進してきたことに尽きる。おかげさまで廃線上の300本もの天然モミジが秋には素晴らしい風景を出現させ、今では東海地方の“隠れたモミジの名所”と呼ばれるようになり(仕込んだのですが)、鉄道愛好者などは吹っ飛ばすほどの一般市民が押し寄せるようになった。

また、C57蒸気機関車の動輪を譲り受け、自転車ペダルを漕ぐと3トンの動輪がグルグル回る“全国初の動態保存動輪”を設置した。公開中は多くの方がペダルを漕いでくれ、10年間で延べ1万5千人が6500回転させた。1回転で5.5m進む動輪の“仮想走行距離”は名古屋駅を出発して、35キロ余りを走破し、来春には37キロ先の多治見駅に到着することになった。入場者が漕ぎ続けた結果の到着は、これまたマスコミも注目するだろう嬉しい悲鳴である。

また今回は、思いつき企画が大当たりした。

### ① “暗やみ”の活用! 「妖怪隧道」

トンネルに投影機で妖怪を登場させた。さらに真っ暗闇を歩くのに都合がよからうと「提灯」を貸し出した。当然のことながらダボハゼのごとく喰らいつく(失礼!) マスコミがヤンヤの広報をしてくれた。

### ② 「自転車による通行システム実験線」の設置

将来ビジョンの目玉としている双頭自転車によるトンネル内通行方法を地元大学工学部と共同研究している。その試作車をトンネル内に30mのレールと転車台を作って検証実験しようとして実現させ大好評だった。

当会の座右の銘は「遺産は資産、資産は活用・運用してこそ人の笑顔がほころぶ」(作・村上)

## ◆シルクロード・ネットワーク◆ 白川郷フォーラム2024 「白川郷合掌造りは絹遺産の宝庫」 開催のお知らせ

今回の開催地は岐阜県白川村。世界遺産にも登録された白川郷の合掌集落です。

日本のふるさとのような原風景をみせてくれる集落は、1976年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、1995年には五箇山(富山県)と共に世界遺産(文化遺産)に登録されました。日本独特の建築様式の合掌造りは、積雪が多い自然条件に適した造りで、上層階では養蚕が行われてきました。今では人気観光地として国内外から多くの方が訪れる白川郷ですが、シルク産業の一大基地としての視点からあらためてフォーラム、見学会を開催します。

■日程/令和7年3月8日(土)・9日(日)

●3月8日(土) フォーラム

会場:合掌造り民家園信称寺本堂

12:00~13:00 受付・集合場所:民家園入口

13:00 開会挨拶

13:15~13:55 基調講演:後藤治

14:00~14:40 開催地報告:白川村

15:00~16:30 各地からの活動報告とシンポジウム

18:00~ 情報交換会

●3月9日(日) 見学会

9:00~12:00 展望台、和田家、田島家など(予定)

12:00~ 昼食(昼食後解散)

●宿泊について

白川郷の湯を予定。人数制限あり

◎問合せ・参加申し込みは、シルクロード・ネットワーク協議会事務局(公益社団法人 横浜歴史資産調査会)まで。

下記メールにてお願いします。

yh-info@yokohama-heritage.or.jp



## ◆第18回 横浜山手芸術祭参加◆ コンサート in ヘリテージ vol.10 ピアノが案内する横浜の歴史とまち 開催のお知らせ

●日時:2025年2月1日(土) 14:00~16:30(開場13:30)

●会場:ベリック・ホール 横浜市中区山手町72

●出演:ピアノ演奏/後藤 泉

●曲目:J.S.バッハ〜グノー:アヴェ・マリア・J.シュトラウス2世:南国のバラ・J.シュトラウス2世:美しく青きドナウ・サティ:ジムノペディほか

●定員:50名(応募者多数の場合は抽選)

●参加費:3,000円(ヨコハマヘリテージ会員は2,500円)

※当日受付時にお支払い下さい

●申込方法:お名前、住所、TEL/FAX番号、メールアドレス、ご参加人数、ご参加の方のお名前。なおヘリテージ会員の方は会員番号。以上を明記のうえ、FAXまたは電子メールでお申込みください。

●申込締切:1月24日(金)

※締切後、ご参加いただける方にはメールまたはFAXでお知らせさせていただきます。

◎問合せ・参加申し込みは、下記にてお願いします。

メール:yh-info@yokohama-heritage.or.jp

TEL&FAX 045-651-1730



横浜市 ベリック・ホール

## 旧モーガン邸再建のため ご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団では、再建委員会(委員長水沼淑子)を開催し、再建計画、事業計画等をまとめ、事業を推進中です。再建費用は、日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保険金の一部と皆様のご寄付で賄います。目標額は1億円。現在、たくさんのご寄付を賜りつつあります。引き続き皆様のご寄付を心よりお願いいたします。

(常務理事 米山淳一)

個人=5,000円(一口)・団体・企業等=100,000円(一口)  
一口から何口でもありがたくお受けいたします。ご寄付いただいたみなさまのお名前は、再建した建物室内に掲出させていただきます。

・振込先:ゆうちょ銀行 口座番号:00270-4-124271

・加入者名:公益社団法人 横浜歴史資産調査会

※モーガン邸寄付と明記をお願いします。

**ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございます。**

●旧モーガン邸再建のための寄付

(敬称略。11月~12月末現在)

後藤 治 100,000円 米山淳一 20,000円

●歴史を生かしたまちづくりファンド

(株)Raystar Film 100,000円

**受付中!**

### ■歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテージ事務局まで。  
TEL・FAX 045-651-1730 E-MAIL yh-info@yokohama-heritage.or.jp

### ■歴史を生かしたまちづくりファンド

歴史的資産の保存活動推進のためにファンドを創設し、みなさまに寄付をお願いしています。寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。当公益社団への寄付は、特定公益増進法人として税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局でご説明させていただきます。

■『ヨコハマヘリテージスタイル 2025早春号』 ■発行/2025年1月10日 公益社団法人横浜歴史資産調査会

■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405

TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ホームページ http://www.yokohama-heritage.or.jp/